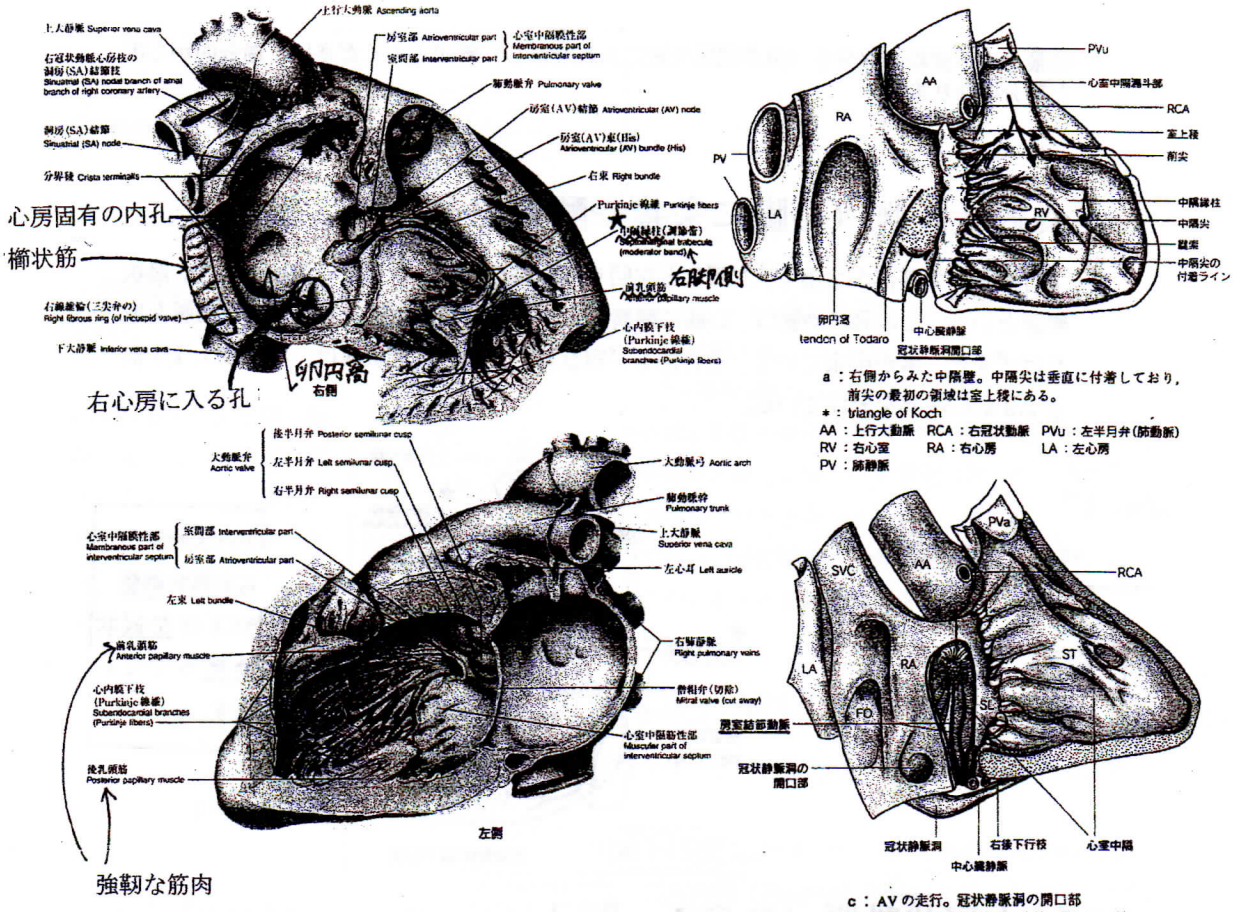

○洞房結節 (Sinuatrial Node;SA node)

結節は長さ約 2.5 cm、幅約 0.2 cm。右房壁に存在する。特殊心筋繊維が心房内に放散している。洞房結節では、周期的に興奮が発生し、これが心房全体に伝えられ、心房が収縮する。このような洞房結節に発生する興奮が心臓拍動の始まりとなるので、洞房結節は心臓の収縮運動の音頭を取るもの。すなわち、Pacemaker といわれている。

★○房室結節 (Atrioventricular Node;AN)

右心房の後壁で、冠状静脈の開口のすぐ上にある。扇形で網状の構造。コッホの三角内にある。洞房結節よりも太く、かつ密な特殊心筋繊維から出来ている。洞房結節からの興奮は心房全体に広がり、房室結節に達し、さらに房室束によって心室に伝わる。

○ヒス束

房室束のこと。心房・心室とを連絡する特殊心筋繊維束である。心室中隔の膜性部の後縁に沿って下行し、心室中隔の★筋性部の上端で、左右の２脚（右脚・左脚）に分かれる。

○右脚

しばらく１本のまま★中隔縁柱（肉柱の大きいもの）に沿って走り、プルキンエ線維(両心室に興奮を伝える)となって終わる。

太さ
左脚＞右脚